

あしたの空へ

令和5年 6月号
 北区立滝野川第三小学校長 關口 泰正
 巡回拠点たきさん 巡回指導教員

新緑と爽やかな風の中で過ごした5月が過ぎ、初夏の香りが漂う頃となります。そして、間もなく各地で「梅雨入り」の発表が続くこととなります。大人でも梅雨時は気分が沈んだり頭が重いような気がしたりすることがあります。大人は天候の変化に伴う様々な情報を意識せず、「スルーする」ことができますが、周囲からの情報を適切に取捨選択することが難しい子どもたちにとっては、次のようなことも起きることがあります。

単調に続く雨音がとても大きく聞こえて人の話を聞きづらかったり、雨に濡れた土やコンクリートの匂いに敏感になり、匂いが気になっていらしたりする子もいます。また、触覚が敏感な子には、じゅじゅしたりべたべたしたりした感じは、私たちが想像する以上に大きな不快感につながることもあります。また、不器用さがあることで、傘の操作やレインコートの着脱など、私たちが想像する以上の負担感を感じている場合もあります。そして、過去に雨の日に関わった嫌なことがあったという記憶があると、それが蘇ることで更に強化されて不安になるという場合もあります。このように心に余裕がない状態では、いつもならば我慢できることも我慢できず、パニックを起こしたり、人や物に当たったりするような“気持ちの爆発”につながることもあります。

感情のコントロールができず周囲の友達とトラブルが起きた後、児童が冷静に自分の言動を振り返り、「そうなんだ。」と気持ちを整理することができるような「事後確認」や「事後対応」が必要です。個別指導の中で友達とのトラブルについて、行動の振り返りをするときのポイントを紹介します。

御家庭でお子さんとやりとりするときにも、言い分を一旦受けとめ、子どもの言葉を復唱しながら話を聞いたり、言葉を補って気持ちを整理させたりすることを意識してやりとりすると良いでしょう。

「分かんないよ。」 → 「あー、そうなんだ。分からないんだね。」

「じゃ、～する。」 → 「～するのね。そうすると、…」または、「じゃあ、そうしようね。」

「知らないよ。」 → 「えっ、気がつかなかったんだね。もしかして、〇〇に夢中だったから気がつかなかったのかな？」

このようなやりとりを根気よく続けることで、自分の言動を振り返ることができるようになります。

巡回カレンダー-6月

1日(木)	2日(金)
滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小

5日(月)	6日(火)	7日(水)	8日(木)	9日(金)	
滝二小・滝三小 もみじ小	滝三小 もみじ小・谷端小	滝二小 もみじ小・谷端小	滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	
12日(月)	13日(火)	14日(水)	15日(木)	16日(金)	17日(土)
滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	滝三小 もみじ小・谷端小	滝二小 もみじ小・谷端小	滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	滝三・もみじ・谷端 ※面談可能です。 (連絡帳で御相談ください。)
19日(月)	20日(火)	21日(水)	22日(木)	23日(金)	
滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	滝三小 もみじ小・谷端小	滝二小 もみじ小・谷端小	滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	
26日(月)	27日(火)	28日(水)	29日(木)	30日(金)	
滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	滝三小 もみじ小・谷端小	滝二小 もみじ小・谷端小	滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	滝二小・滝三小 もみじ小・谷端小	



友達とのトラブルなどで「行動の振り返り」が必要なとき

ポイント1 どこで

★なるべく刺激の少ない静かな教室で事情を聞き取ります。雑音があるときには、そちらに気をとられてしまい、落ち着いて話すことは難しいのです。

ポイント2 聞き取りをしながらメモをとる

★聞き取ったことは必ず書き留めましょう。口頭でやりとりするだけでは、振り返ったことが記憶に残らないだけでなく、自分の言動を思い出すきっかけになるものが見えないのです。まずは、「事後確認」が大事です。自分の言った言葉を他者がメモする。そのメモを見ているうちに時系列に自分や相手の言動を思い出すこともあります。

★聞いたら、復唱しながら、すぐに書き留めます。全部聞き終わるまで、聞き手の意見や指導ははさみません。

★聞き手の態度を気にしている様子が見られたら、「ちょっとやっちゃった？」と問い掛けてみるのもよいでしょう。この台詞には軽妙なトーンが含まれているので、自尊心を守りつつ、本当のことを語らせることができることが多いのです。

ポイント3 メモの書き方

★右の図の①のように、トラブルの原因に触れてきます。それが児童の思い違いであったとしても、「△△された（言われた）のは、悔しかったね。」と、そのときの気持ちを言葉で表現します。

★聞き手が描いた絵を見ながら、「もうちょっと少しかったよ。」と具体的な話が出てきたら、それも書き加えます。

★右の図の①「トラブルのきっかけ」について、トラブルになった相手（Aさん）に思い違いや感覚過敏があることによる過剰反応などが想定される場合には、相手の気持ちも代弁して伝えます。また、「ぼく」の方にも思い違いや過剰反応があったと考えられる場合には「もしかして、～って思った？」と、その気持ちを引き出すことも必要です。

★メモを見せて、「ここは、ちょっと悪かったなと思うところはあるかな？」と聞くと、大抵の場合は答えが返ってきます。「事後確認」（事後指導の前に行う事後確認）を行うことで、自分のどこがまずかったのか、どうすればよかったのか、ある程度分かるはずですが、うまく言えなければ、サポートします。望ましい対応の仕方も絵や吹き出して表現して、メモに書き加えると良いでしょう。

★「先生に（私に）できることは、ある？」という問い掛けをしたり、望ましい対応が言えたときの「それが分かってよかった。」という言葉掛けをしたりすることも、次につながる「行動の振り返り」になります。

○月○日 休み時間が終わりそうとき

①Aが△△って言ってきた。



②ぼくが、□□した。

③Aが▲▲してきた。

④ぼくが



※絵は棒人間でも十分です。吹き出しだけでもOKです。